

## 第2章 総合的な学習の時間のカリキュラム評価の実際

### 1 小学校のカリキュラム評価の実践例

【視点1：実施前】

(1)【視点1：実施前】の実際（佐賀市立鍋島小学校 第6学年）

ア 実践事例1：年間カリキュラムの見直し・改善（項目とチェック事項は、p.10を参照）

項目	チェック事項
年間カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の配列，実施の時期や期間が適切であるか。</li> <li>発達段階に応じた育てたい資質や能力，学ばせたい学習内容等を考慮しているか。</li> </ul>

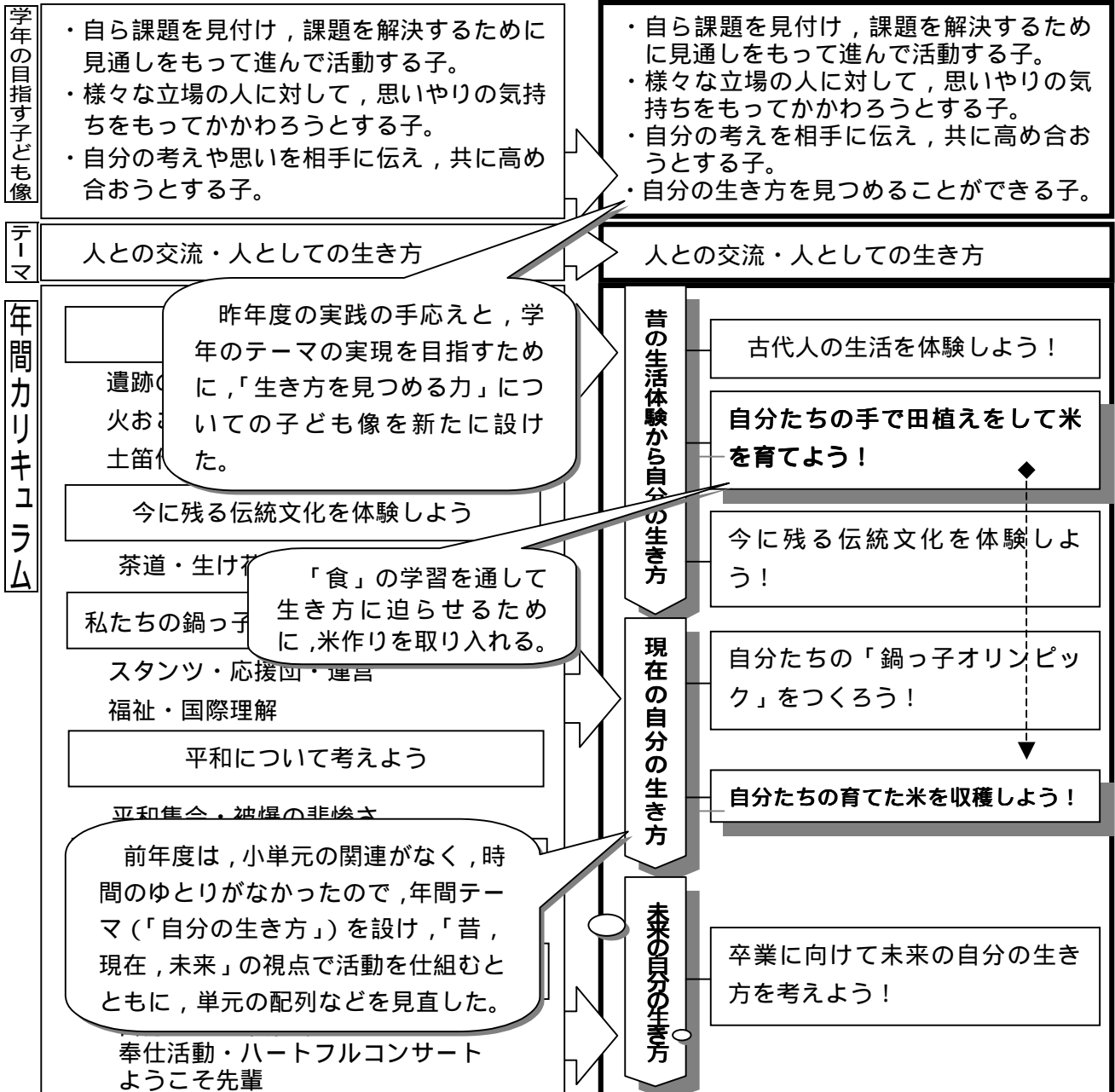
ここをチェック！



上のチェック事項をもとに年間カリキュラムの見直し・改善を図った。昨年度の担任の引継ぎ事項には、「子どもたちが、課題追究を行っていく中で、自己の生き方（伸びや成長）を実感できるようになった」こと、「実施した単元の関連がなく、テーマをしっかりと意識させることができなかった」ことなどが挙げられていた。そこで、下のように改善を図った。

前年度：年間（実施）カリキュラム

今年度：年間（計画）カリキュラム



イ 実践事例2：単元計画（評価計画）のカリキュラム評価と考察

（項目とチェック事項は、p.10を参照）

項目	チェック事項
単元計画 (評価計画)	✓ (ア)子どもの特性や地域の特性を生かした単元計画となっているか。
	✓ (イ)子どもの意識の流れに沿った単元計画となっているか。
	✓ (ウ)目標・内容を踏まえた、具体的な評価規準が設定されているか（子どもの伸び、よさを評価できるか）。

ここをチェック！



(ア) 地域の特性を生かした単元計画

今年度は地域の方の協力を得て、学校の近くの田を借りることができるようになった。子どもたちの手によって、田植えから稲刈り・収穫までが可能となり、年間通じて「自己の生き方」を見つめさせる上で大変有効であると考え、今年度の年間計画に新たに取り入れることにした。

(イ) 子どもの意識の流れに沿った単元計画

昨年度の反省として、次のようなことが挙げられていた。「各単元が、教科の発展であったり、学校行事や特別活動との関連があったりして、子どもたちの思いや願い、活動の広がり等を十分に保障することができなかった」こと。「単元と単元のつながりがあまりなく、年間を意識してカリキュラム作成していなかったので、学年テーマの『人と人の交流・人としての生き方』を十分に意識して取り組むことができなかった」ことなどである。

そこで、今年度は、年間を通して学年テーマを意識して取り組むことができるように、学期ごとに「昔の生活体験から自分の生き方を考える」「現在の自分の生き方を考える」「未来の自分の生き方を考える」という柱を設けた。さらに、学年の目指す子ども像の中に、「自分の生き方を見つめることができる子」という項目を追加して、教師も子どももはっきりとしたねらいをもって取り組んでいくようにした。

古代人の生活を体験しよう！

活動についての感想や学んだことを記入。

評価規準に対応させて自己評価させる。

自分の生活を見つめさせ、今後の生き方を考えさせる。

(ウ) 目標を踏まえた評価規準の設定

目標から評価規準までのつながりが不十分であったので、下のように整理した。各単元の目標と評価規準については、教師の共通理解が図れるように、「……する活動を通して、……を学び、……していこうとする」という基本文型を取り入れ再整理した。さらに、評価規準については、目標・内容との整合性を踏まえ、具体的に設定した。また、授業で用いた「振り返りカード」においても、評価規準に対応させて作成し、子どもの学びの高まりが分かるようにした。

月	単元・テーマ	教科との関係	活動の内容	地域のもの	目標	評価規準				
						関心・意欲・態度	選択・探求する力	表現し行動する力	生き方を見つめる力	
5	古代人の生活を体験しよう！	社会	皇子様ご様子の見学 西野ヶ原歴史公園の見学 文芸こしや館 写実作り土器作り体験講座 理と職立のコーナー作り土器作り	西野ヶ原歴史公園 皇子様古墳 北野朝文土器館 土器作り名人の工房 あまさん	古代人の生活を体験する活動を通して、古代人の知恵や技術を学び、よきよい生活や文化を創造していくとする。	まわりもののロビーことばで調べたことがそのとくに面白く、自分の活動を見つけて進めようとする。	自分の活動を通して進めようとする。古代人の生活を体験し、学びたいことが入るようとする。	自分の活動を通して進めようとする。古代人の生活を体験し、学びたいことが入るようとする。	自分の活動を通して進めようとする。古代人の生活を体験し、学びたいことが入るようとする。	体験したことをもとに、自分の生活を振り返り、よきよい生活や文化を創造していくことができる。

「……する活動を通して、……を学び、……していこうとする」を基本文型とする。

「本校の総合的な学習の評価の趣旨」と「単元の目標」から評価規準を設定。

(2) 【視点2：実施中】と【視点3：実施後】の実際（伊万里市立大川内小学校 第4学年）

下の単元の実際は、単元計画に修正・変更箇所を書き入れたものである。28時間の単元計画であったが、実際では36時間に増えている。ここでは、【視点2：実施中】と【視点3：実施後】において、「単元計画」や「本時の評価活動」などの項目を設けて、カリキュラム評価を行った実践を載せている。

単元名 やさしい町づくりプロジェクト（—— は、修正・変更箇所）

単元の実際（計画 28時間 実施 36時間）

過程	時配	学 習 活 動
出会う	2	1学期の実践を振り返り、大川内のすきなところやきらいなところを話し合う。 <u>「大川内町探検」を行う（すきなところときらいなところの写真をデジカメで撮影）。</u>
	4	<u>「大川内町探検」の報告会を行う。</u>
	2	<u>「大川内町探検」の報告会を行う。</u>
つかむ	3	<u>「大川内は今どんな町で、自分たちはこれからどんな町にしたいか」をみんなで話し合って自分の課題を見付ける。</u>
	2	課題別のグループで、自分たちにできる町づくりを計画する。
さぐる	6	計画に沿ってコース別に活動する。 <u>ごみのないきれいな町にしよう</u> コース <u>お年寄りの方と仲良くなろう</u> コース <u>焼き物PR大作戦</u> コース <u>大川内町写真マップ作り</u> コース
	1	活動している内容を報告し、やさしい町づくりになっているかを意見交換し、活動を見直す（シンポジウム）。
	4	<u>見直した計画を基にやさしい町づくりプロジェクトを再開する。</u>
	6	活動してきたことをまとめる。
	2	・パンフレット、プレゼンテーション（コンピュータ）作成
まとめる	6	作ったりまとめたことについて、お世話になった人や保護者の方を招待して「やさしい町づくりプロジェクト」（報告会）を行う。
	2	自分たちがやってきたことがどれだけ地域の役に立っているかを確かめる。 <u>冬休みを使って、パンフレット等の配布や地域行事へ参加し、意見を聞く。</u>
広げる	2	自分たちがやってきたことがどれだけ地域の役に立っているかを確かめる。 <u>冬休みを使って、パンフレット等の配布や地域行事へ参加し、意見を聞く。</u>

**【視点2：実施中】**  
**実践例3：単元計画**  
 課題をつかむ期間（オリエンテーション）や手立て（体験活動や話し合い）を十分に保障しているか。  
 （p.21 詳細説明）

**【視点2：実施中】**  
**実践例4：本時の評価活動**  
 本時の評価の観点、評価規準は適切であったか。  
 自己評価や相互評価などが、児童の伸びを自覚させることに機能していたか。  
 （p.22 詳細説明）

**【視点2：実施中】**  
**実践例5：児童の見取り、指導と評価**  
 児童の学びの姿を多面的、継続的に見取り、適切な指導を行っているか。  
 （p.23 詳細説明）

**【視点3：実施後】**  
**実践例6：評価活動**  
 単元の評価の観点、評価規準は適切であったか。  
 （p.24 詳細説明）  
**実践例7：児童の変容と目標・内容の見直し**  
 単元を通して、児童が内容を獲得することで培った資質や能力を把握し、自校の総合的な学習の時間の内容の見直しを図っているか。  
 （p.25 詳細説明）

**【視点2：実施中】**

ア 実践事例3：単元計画のカリキュラム評価

(項目とチェック事項は p.12 を参照)

ここをチェック!



項目	チェック事項
単元計画	✓ 課題をつかむ期間(オリエンテーション)や手立て(体験活動や話し合い)を十分に保障しているか。

**【計画】**  
 「大川内町探検」を行う(すきなところときらいなところを見付ける)  
 (2時間)

**【実施】: 修正・変更点**  
 「大川内町探検」を行う(すきなところときらいなところをデジタルカメラで撮影)。(4時間)  
「大川内町探検」の報告会を行う。 (2時間)  
 課題をつかむ期間や手立てを十分に保障することを、次年度への気付きとして残す。

< 単元計画のカリキュラム評価の考察 >  
 デジカメの活用, 時数の変更について

計画段階では, 大川内探検を以前に行ったことがあるので, 2時間扱いとしていた。しかし, 大川内のすきなところときらいなところ(たりないところ)を話し合った際,

すきなところ・・・焼き物が有名, 自然がいっぱい  
 きれいなおとこ・・・ごみが多い, 遊ぶ公園が少ない

などの意見のように, ほとんどの子が, 漠然とした答えをしており, 十分に地域を見つめていないことが分かった。また, 「自然とは何をさすのか」「危険な場所はどこにどのくらいあるのか」「ごみは本当に多いのか」等について問い直しても, 的確に説明できる子はいなかった。

そこで, 漠然と探検させるのではなく, すきなところときらいなところをデジカメで撮影させ, 「なぜその場面を撮ったのか」の理由を学習カード(右参照)に記入させ, 地域の問題点や課題をもたせやすくした。また, じっくり地域を見つめさせるために時間を2時間 4時間に変更した。

「大川内町探検」の報告会について

計画段階では, 探検後, ウェビングをさせ, すぐに課題をもたせる予定であった。しかし, ウェビングを見ると, ほとんどの子がA児のように少ない視点で大川内町をとらえていた。そこで, 大川内町のすきなところときらいなところを発表させ, 視点を広げさせるために「大川内町探検報告会」を取り入れ, クラスで再度見つめ直すことにした。

報告会では, 各自が撮影した写真を基に, 「なぜ」その場面を撮ったのかを説明させ, 課題の共有化を図った。「町づくり」がプランではなく, 現実的なものにしていくには, 課題をつかむ段階で地域の問題点や地域の方の思いや願いを十分に知る時間が必要である。そういう意味でこの報告会はたいへん有効であった。

**【課題設定のための学習カード】**

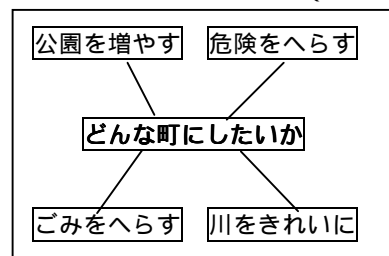
ごみがたくさん落ちている!

だから, この町が(すき・きれい)

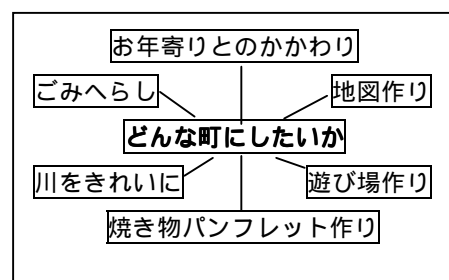


理由: 川の近くを歩いていると, ジュース缶やちり紙, ビニールぶくろなどがたくさん落ちていたから。特に, 地区にたくさん落ちていた。

**【探検後のウェビング (A児)】**



**【報告会後のウェビング (A児)】**



イ 実践事例4：本時の評価活動のカリキュラム評価（項目とチェック事項は、大川内小学校で作成）



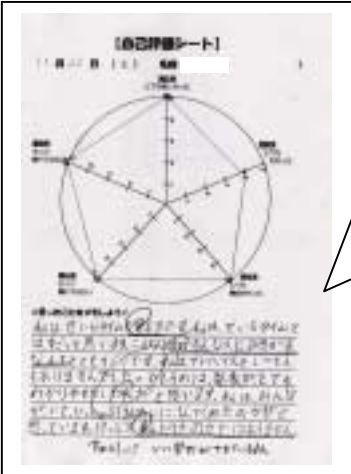


項目	チェック項目
本時の評価活動	✓ 本時の評価の観点，評価規準は適切であったか。
	✓ 自己評価や相互評価などが，児童の伸びを自覚させることに機能していたか。

上記の項目をもとに，本時の評価規準や自己評価について検討を行っている。

本時の活動（19 / 33）の実際（—— 修正・変更箇所）

- ・ 本時の評価規準  
 < 学び方・ものの考え方 >  
 大川内町の問題を様々な視点から考え，友達や保護者のアドバイスを受けながら，町づくりの方法の見通しを立て，活動の見直しができる。（行動観察及び学習カード，自己評価カード）
- ・ 本時の展開

学 習 活 動	
1. 本時の学習活動を確認する。	
やさしい町づくりを行っていくためには，どんな活動が必要かを友達や保護者の方々にアドバイスしてもらい，活動を見直そう。	
2. 「やさしい町づくり」をテーマにシンポジウムを行う。	
各コース別に活動経過及び問題点の発表	
大川内町地図作りコース	焼き物PRコース
お年寄りの方とのふれあいコース	ごみのないきれいな町づくりコース
シンポジウムでの提案	提案について意見交換
	
3. 活動の見直しを発表する。	【子どもの感想（自己評価）】 ・他のグループの活動が分かって，自分たちの活動にも生かすことができた。 ・私たちにはアドバイスはなかったが，他のグループの意見交換から参考になることがあり，活動の見直しに生かした。 ・ここまでやってこられたのも，みんなのおかげだと思った。
4. 自己評価タイム	
	自己評価に思いを書かせたことは，伸びを自覚させ，さらに，全体で紹介したことで伸びをクラス全体で共有化することができた。

【本時の考察】  
 子どもたちは，それぞれの視点から意見を交換し，活動の見直しにつなげていった。意見は活発に出されたが，一問一答形式となり，全体で考える場面を作ることができなかった。  
「やさしい町」とはどんな町かを再確認する場を与えるべきであった。

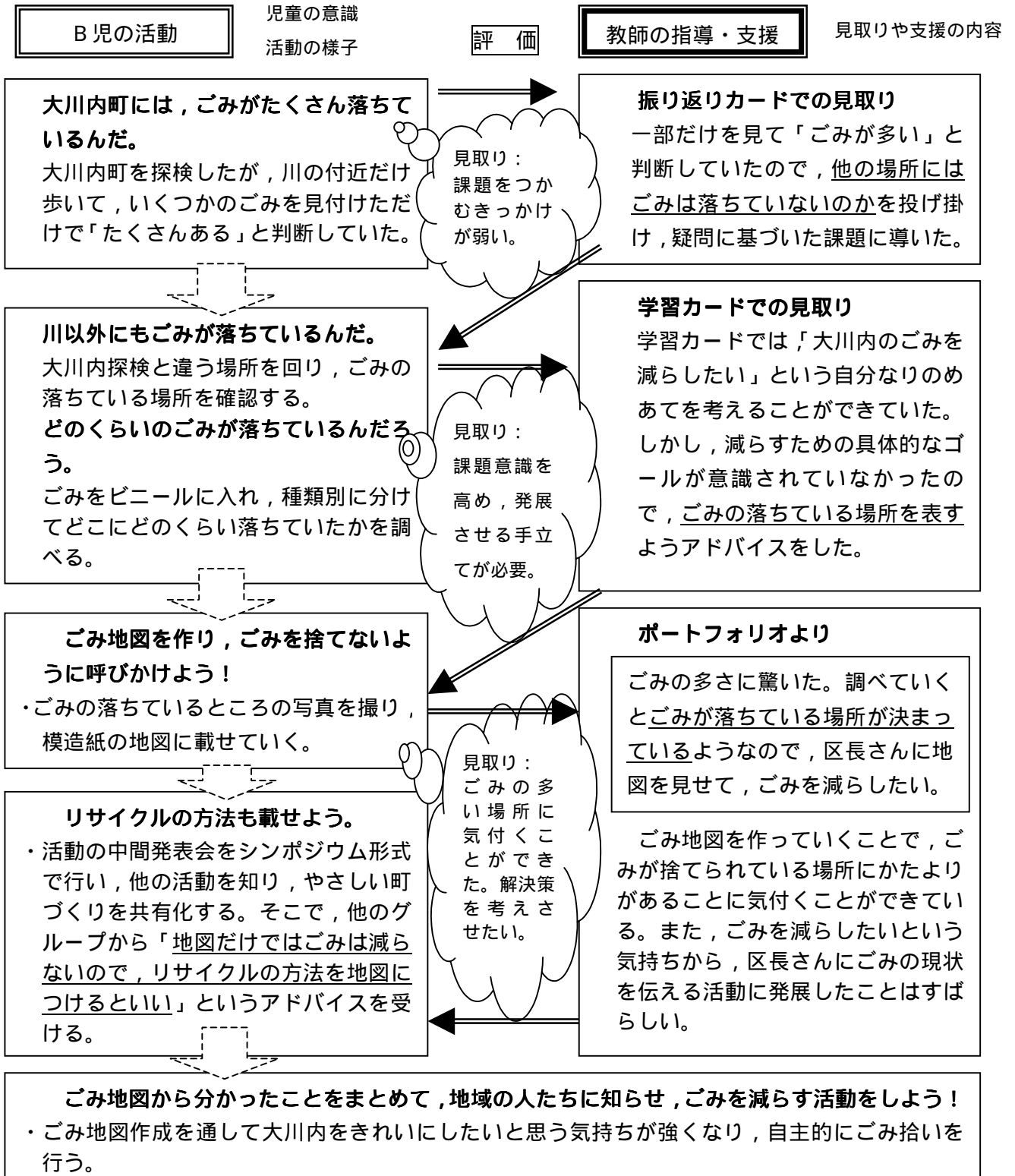
【評価規準の修正】  
 同じ視点（ゴール）で話し合いが進みやすいように，「やさしい町」を視点に考え，友達や保護者のアドバイスを受けながら，町づくりの方法の見通しを立て，活動の見直しができる」に変更すると，子どもの意見が焦点化され伸びを見取ることができる。

ウ 実践事例5：児童の見取り，指導と評価のカリキュラム評価（項目とチェック事項はp.12を参照）



項目	チェック項目
子どもの見取り 指導と評価	✓ 子どもの学びの姿を多面的，継続的に見取り，適切な指導を行っているか。

B児の学びの姿を見取り，課題追究を促すために，適切な指導・支援を行った。





【視点3：実施後】

エ 実践事例6：評価活動のカリキュラム評価

(項目とチェック事項はp.14を参照)

ここをチェック!



項目	チェック項目
評価活動	✓ 単元の評価の観点，評価規準は適切であったか。

本単元を通して，子どもの学びの事実をとらえ，評価規準の見直し・改善を行った。

( ——— は，修正・変更箇所)

観点	評価規準(実施前)	【子どもの学びの事実】	見直し・改善
問題解決力	大川内探検を通して， <u>疑問に思ったり 解決したいと思ったりしたことを</u> 基に， <u>友達</u> のアドバイスを受けながら，自分にできる町づくりを考え，町づくりの方法の見通しを立て，計画に沿って実行することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大川内町内を歩き回り，「<u>すきなところ</u>」や「<u>きれいなところ</u>」を見付け，大川内町に必要なことを考えることができた。</li> <li>・焼き物のPRパンフレットを作るために，地域の窯元を訪問し，焼き物のひみつを学んだ。</li> <li>・活動のゴール(目標)を決め，地域の方とかかわりながら計画を見直し，実行することができた。</li> </ul>	大川内探検を通して，「 <u>すきなところ</u> 」や「 <u>きれいなところ</u> 」を見付け，それを基に <u>友達</u> や <u>地域の方</u> のアドバイスを受けながら，自分にできる町づくりを考え，町づくりの方法の見通しを立て，計画に沿って実行することができる。
学び方・ものの考え方	町づくりの計画に沿って，必要な情報を効果的に集めたり，情報内容を整理して表やグラフにまとめたりして，自分の考えを分かりやすく発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方へのインタビューや本，インターネットなどで効果的に情報を集め，自分の生活とのつながりに気付き，自分の考えを見直すことができた。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく発表ができた。</li> </ul>	町づくりの計画に沿って，必要な情報を効果的に集めたり， <u>地域の方とのふれあい</u> を通して <u>自分の生活とのつながりに気付いたりして</u> ， <u>自分の考えを見直し</u> 分かりやすく発表することができる。
主体的・創造的な態度	地域の人々やものに進んでかかわりを持ち，自分にできる町づくりを試行錯誤しながら，最後まで粘り強く実行していくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行錯誤しながら粘り強く実行することができた。</li> <li>・地域の方を訪問したり，興味をもった場所に取材に行ったりするなど，積極的に地域にかかわった。</li> </ul>	地域の人々やものに進んでかかわりを持ち，自分にできる町づくりを試行錯誤しながら，最後まで粘り強く実行していくことができる。(変更なし)
自己の生き方	町づくりプロジェクトを通して，地域のために活動する素晴らしさを感じ，自分の存在価値を知るとともに，日常生活の中でも自分にできる町づくりを実践していくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のために活動をするすばらしさを感じた子は多かったが，日常生活の中でも町づくりを実践していくことは，4年生の段階では，まだまだ難しいようであった。</li> <li>・地域のよさや地域の方の温かさに気付くことができた。</li> </ul>	町づくりプロジェクトを通して，地域のために活動するすばらしさを感じ，自分の存在価値を知るとともに， <u>プロジェクトを行うことで</u> ， <u>地域のよさに気づき</u> <u>郷土を愛する気持ちをもつ</u> ことができる。

オ 実践事例7：児童の変容と目標，内容のカリキュラム評価（項目とチェック事項はp.14を参照）

ここをチェック！



項目	チェック事項
子どもの変容と目標・内容	✓ 単元を通して，子どもが内容を獲得することで培った資質や能力を把握し，自校の総合的な学習の内容の見直しを図ったか。

この単元を通して，活動グループごとにどのような内容を獲得したかを明らかにし，見直しを行った。

内容領域：地域文化における育てたい資質や能力及び内容項目（大川内小学校）

領域	育てたい資質や能力	内容項目
地域文化	地域の生活や文化に積極的にふれ，地域を支える人たちの働きや活動を知り，地域の生活や文化を守り，受け継ぐとともに，新しい生活や文化を創造していくことのできる資質や能力	地域理解 文化継承 郷土愛

単元「やさしい町づくりプロジェクト」を通して，培った資質や能力 下線は新しく獲得した内容

【焼き物PRグループ】

地域の人が知らない焼き物のひみつを調べ，パンフレットにし，配布することを目標に活動した。  
活動の中では，いろんな窯元を訪問し，作り方を習ったり，材料のひみつや焼き物の歴史などを調べたりすることができた。

大川内の特色である焼き物について理解することができた。（地域理解）  
地域にはすばらしい窯元がたくさんあり，地域の文化を継承しようと勉強している方がいることに気付く。（文化継承）（郷土愛）

【お年寄りとのふれあいグループ】

地域のお年寄りの方々と仲良くなることを目標に活動した。  
活動の中では，一人暮らしのお年寄りの方に電話をかけ，家を訪問して遊んだり話をしたりした。また，お年寄りの方に関する行事を調べ，積極的に参加した。

お年寄りとのふれあうことで，思いや願いを知ることができ，お年寄りの方が幸せに暮らせる社会がどんなものかを考えることができた。（福祉理解）  
大川内の行事を公民館で調べ，お年寄りの方たちの行事やゲートボールなどに参加し，交流を深めた。（地域交流）

【ごみのないきれいな町づくりグループ】

町内に落ちているごみの様子を基に地図を作成して地域に知らせるなど，ごみを減らすことを目標に活動した。  
活動の中では，大川内町内のごみを拾い，分別しながらデジカメで記録し，地図の上に貼付していった。また，リサイクルについてポスターにしたり，地図を区長さんに見せてごみを減らすことを呼び掛けたりした。

大川内のごみの様子を調べることで，地域の問題を知り，よりよい町をつくっていかうとする態度が身に付いた。（地域理解）  
大川内の自然の豊かさや大切さを感じ，リサイクルする方法でごみを減らす活動を行った。（リサイクル）

この単元では，内容の「地域文化」領域として「地域理解」，「文化継承」，「郷土愛」という具体的な内容（学び）があると考え，スタートした。子どもたちは，活動の中で地域の方々と積極的にかかわり，上記のように「地域交流」という内容が加わった。さらに，「福祉」「環境」という領域まで広がりを見せ，「福祉理解」「リサイクル」といった具体的な内容を獲得した。この単元で，新しく獲得することができた内容を付加し，次年度への気付きとして残していくことにした。



(3) 【視点4：カリキュラム全体】の実際（佐賀市立開成小学校 第5学年）

ア 実践事例8：総合的な学習の時間の目標（学年）と内容の見直し・改善（評価項目はp.16参照）

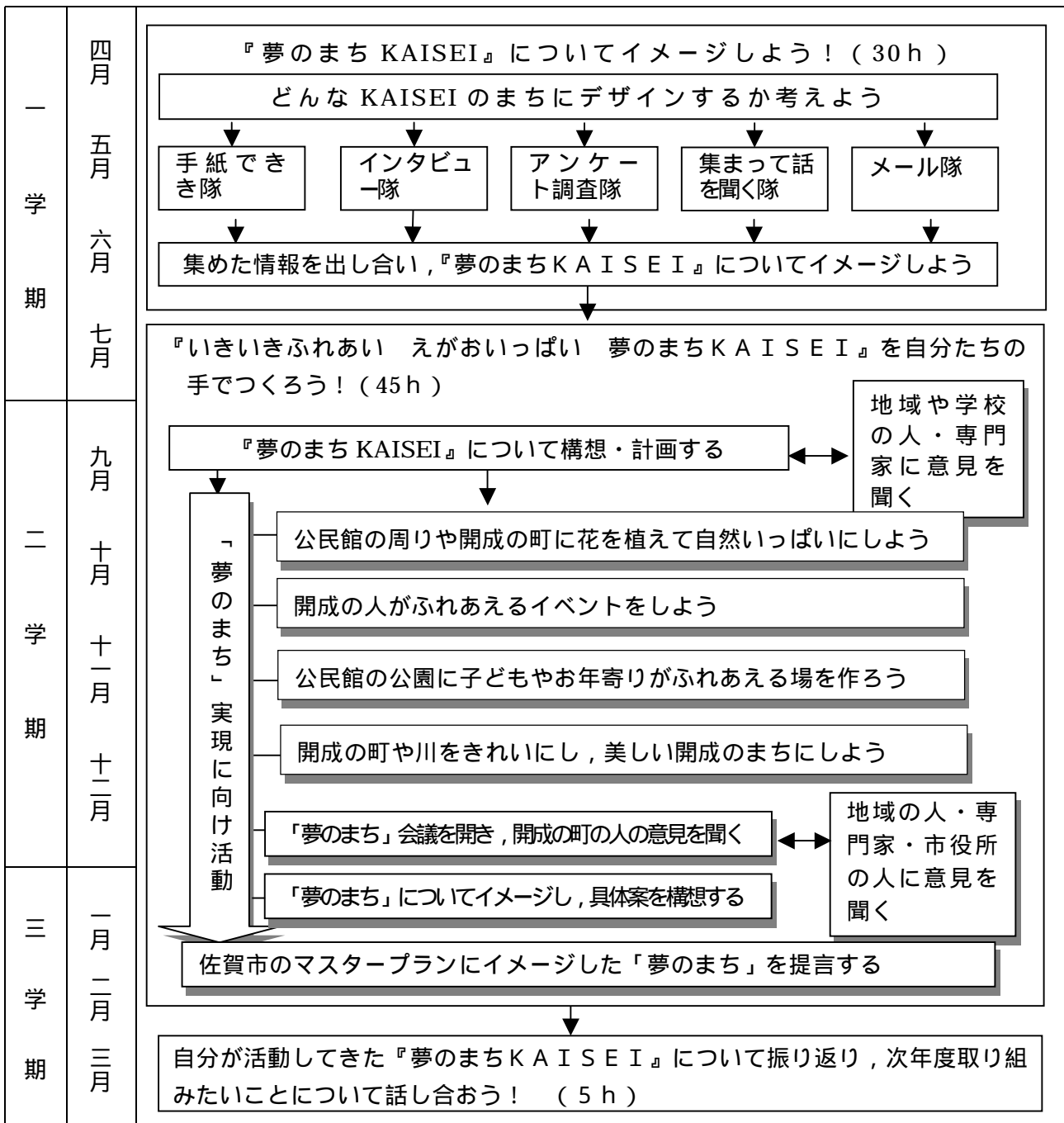
項目	チェック事項
総合的な学習の時間の目標（学年）	✓ 子どもの学び（獲得した力）に応じて、総合的な学習の時間の目標（学年）の見直しが図られているか。



下の資料は、年間（実施）カリキュラムである。見直し・改善を図った点は、学年目標に迫らせるために、地域に働き掛ける場をできるだけ設け、活動の機会を保障したことである。次ページでは、目標（学年）の見直しを図った手順について載せている。

学年テーマ 「『夢のまちKAISEI』を自分たちの手でつくろう！」（80時間）

学年の目標 自分たちが願う『夢のまち KAISEI』をデザインする活動を通して、地域の人とのふれあいや思いを実現していくことの困難さと充実感を学び、よりよき開成の一員を目指そうとする。



第5学年は、下の目標に向かって1年間取り組んできた。

「自分たちが願う『夢のまち KAISEI』をデザインする活動を通して、地域の人とのふれあいや、思いを実現していくことの困難さと充実感を学び、よりよき開成の一員を目指そうとする。」

年間（実施）カリキュラムと、子どもの学びの事実を基に、目標をどれだけ達成することができたのか、以下のような手順でカリキュラム評価を行った。

### 総合的な学習の時間の目標の分析

本学年の目標の構成要素をとらえ、次の3つの観点から評価を行うことにした。

- ・ 思いを実現していくことの困難さと充実感
- ・ 地域の人とのふれあい
- ・ よりよき開成の一員

次に、この3つの観点について、子どもたちに活動終了後に振り返りをさせた。結果については右のグラフのとおりである。「夢実現」については右のグラフのとおりである。「夢実現」について、十分実現できたと思っている子どもが半数程度であった。追究した結果が具体的な姿として目に見えるものが少ないからであると考えられる。

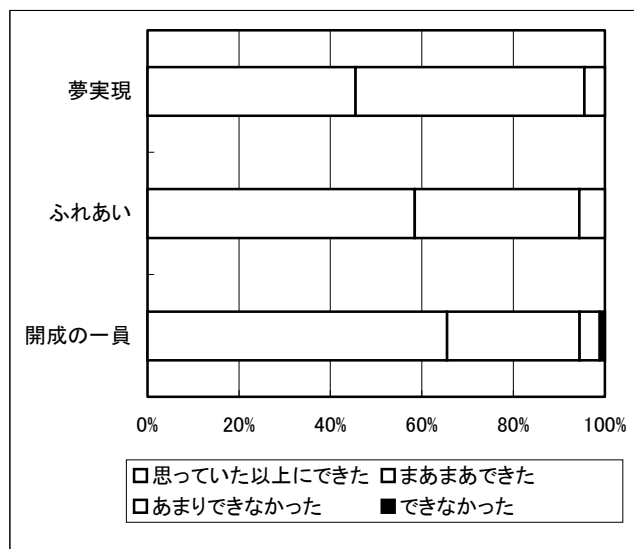


図3 目標についての子どもの学び

### 「自己の生き方を考える」ことができたか

この単元の大きなねらいは「まちづくり」である。そこで、総合的な学習の時間のねらいでもある「生き方」について、子どもたちがどのくらい学ぶことができたのかを調べるために、子どもとその保護者に「生活や意識の変化」について尋ねたところ、以下のような答えが返ってきた。活動が深まっていくほどに、少しずつではあるが、「夢のまち KAISEI」の実現のために、自分の生活から変えていこうという意識の変化が見られるようになってきた。このことは、開成に生きる一人としての自覚が芽生えてきたことの表れととらえられる。

#### <保護者アンケートより>

- ・ 開成は暮らしやすい町であるが、これからどう変わっていくのか心配。子どもたちの夢が現実となればもっとすばらしい開成のまちができるだろう。大人も協力して夢をかなえたい。
- ・ 今回取り組まれたテーマは、確実に子どもの心に種を落としていると思う。
- ・ 話題が学校内のことだけでなく、町や環境のことへ広がっていった。

#### <子どもの生活や意識の変化>

- ・ 川の水の様子がいつも気になるようになった。家でも、家族でゴミや排水など環境にやさしいことを実践している。(I・F)
- ・ 地域の人（交通指導員、お年寄り、公民館の方など）に、自然にあいさつができるようになった。(O・T)
- ・ 開成の町のすてきな様子が、たくさん見えてきた。花を植えてある場所、ボランティアでごみ拾いをしている人など。(E・K)

### 次年度へ向けて

今年度の総合的な学習の時間の取組を通して、上述のような子どもの学びの姿から、学年の目標に迫ることができたのではないかと考える。目標設定も、適切であったのではないかと考える。課題追究に向けて、試行錯誤しながら困難さと充実感を学べるようなゆとりをもった年間カリキュラムを作成することが重要である。また、子どもたちに、追究の手応えが具体的な姿として現れるような活動を仕組んでいくことも大切である。

イ 実践事例9：内容（領域，段階）のカリキュラム評価と考察（項目とチェック事項はp.16を参照）

項目	チェック事項
内容（領域，段階）	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの学びの成果（獲得した力）を基に，内容の領域や段階の検討・見直し（付加修正）が図られているか。



学年の担任が集まり，年間の実施した単元すべてについて，子どもの具体的な学びを列挙していった。資料17のように，学校が作成した「内容（他者理解，コミュニケーション，町，資源など）」に関連付けて，具体的な学びを記入し，目標段階表に則して評価し一覧表にまとめた。

そして，学年末に，総合的な学習の時間のカリキュラム検討委員会を行った。各学年の研究推進委員が，この一覧表を持ち寄り，互いに報告を行い，学校で作成した「内容段階表」の「視点と内容」「ねらい」「目標」について見直しを行った。このように，各学年の実績を基に「内容段階表」を見直し，付加・修正を行い，学校独自の「内容」を充実させていく。

資料17 総合的な学習の実践における学び（平成13年度佐賀市立開成小学校 研究推進委員会資料から）

総合的な学習の実践における学び

( 5 ) 学年  
 テーマ：「『夢のまち KAISEI』を自分たちの手でつくろう！」  
 目標：自分たちが願う『夢のまち KAISEI』をデザインする活動を通して，地域の人のとふれあいや，いを実現していくことの困難さと充実感を学び，よりよき開成の一員をめざそうとする。

視点	内容	前学年	単元1	単元2	単元3	単元4	具体的な学び
人	他者理解	◎		○			○開成のまちのひとり暮らしのお年寄りのお宅訪問をしたり，交流会をしたりする活動を通して，相手の方の思いを知ることができ，相手に喜んでもらうことの喜びを感じて，人とふれあうことのよさを学ぶことができた。また高齢者疑似体験をし，お年寄りの気持ちに近づくことができ，年をとることややがて訪れる高齢化社会についての認識を持つことができた。
	コミュニケーション			○			
社会	町		◎	◎			◎開成の町の人々を情報収集する活動を通して，地域の人の思いや暮らしのよさを学ぶことができた。
	資源						
	生活						
	情報						

学校で作成した「総合的な学習の時間の内容と段階」に則して学んだ内容を判断し，  
 ◎表示。

：各学年の段階表に則して，目標を大きく越えた学びができた。  
 ：各学年の段階表に則して十分達成  
 ：各学年の段階表に則しておおむね達成  
 ：体験した程度

<カリキュラム検討委員会の考察>  
 「5年生の実践による学び」では，活動の中心が「まちづくり」であったために，「内容段階表」の視点「社会」の中の「町」（内容項目）についての学びが中心であった。「内容段階表」の「ねらい」や「高学年段階の目標」について，今回の実践から検討し合った結果，「適当である」という結論に至った。内容を修正したり，新たな内容を追加したりすることはなかった。

5 総合的な学習の内容と段階

視点	内容	ねらい	高学年段階の目標	中学年段階の目標
人	他者理解	様々な人たちの存在を知るとともに，多様な考え方や価値観があることに気づき，人のよさや人とのかかわり合いの大切さを知る。	地域や外国の人たちと一緒に活動したり交流したりすることを通して，多様な考え方や価値観があることに気づき，大切にしようとする。	地域や外国の人たちと一緒に活動したり交流したりすることを通して，他の人の思いや願いやよさに気づく。
	コミュニケーション	様々な人たちの思いや願い，よさを知り，大切にしようとする。新しい価値観を学ぶ。	地域や外国の人たちと一緒に活動したり交流したりすることを通して，多様な考え方や価値観があることに気づき，大切にしようとする。	地域や外国の人たちと一緒に活動したり交流したりすることを通して，他の人の思いや願いやよさに気づく。
社会	町	学校や町の仕組みや役割を理解し，地域社会の一員として，自分たちができるやり方で，よりよい町作りを貢献しようとする。	学校や町の仕組みや役割を理解し，地域社会の一員として，自分たちができるやり方で，よりよい町作りを行うことができる。	学校や町の仕組みや役割を理解し，地域社会の一員として，自分たちができるやり方で，よりよい町作りを行うことができる。
	資源	資源に限りがあることや大切さが分かる。自分たちができるやり方で，資源の有効な利用を行う。	資源に限りがあることや大切さが分かる。自分たちができるやり方で，資源の有効な利用を行う。	資源に限りがあることや大切さが分かる。自分たちができるやり方で，資源の有効な利用を行う。
	生活	地域の生活や文化にふれながら，それを守り，受け継ぎ，よりよい生活や文化を創造していく。	地域の生活や文化にふれながら，それを守り，受け継ぎ，創造していく。	地域の生活や文化にふれながら，それを守り，受け継ぎ，創造していく。
	情報	様々なメディアに触れ，慣れ親しむ中で，メディアの特性や機能を知るとともに，ネットワーク社会の一員として必要な資質や能力を身に付ける。	デジタルメディアを使ってポスターや新聞，ホームページを作ったりする活動を通して，表現力の幅を広げるとともに著作権やマナーの大切さについて知る。	パソコンやインターネットに必要な情報を収集したりパソコンで作品を作ったりする活動を通して，メディアの特性や可能性を知る。
自然環境	自然の大切さを理解し，守り，よりよい自然環境づくりに貢献しようとする。	野行川にボートを飛ばす活動など地域の自然に働きかけ，開成の町の自然を守り，よりよい環境づくりに貢献しようとする。	身近な自然を観察したり，自然の中で遊ぶ活動を通して，地域の自然の様子を知る。	

## 2 中学校のカリキュラム評価の実践例

(1)【視点1：実施前】の実際（武雄市立武雄中学校 第3学年）

【視点1：実施前】

### ア 実践事例1：年間カリキュラムの見直し・改善

次ページに示している，評価項目のチェック事項で，前年度の年間（実施）カリキュラムを見直し，今年度の年間（計画）カリキュラムを作成した。

前年度：年間（実施）カリキュラム

今年度：年間（計画）カリキュラム

<p>学 年 目 標</p>	<p><b>生命を尊重する態度を育成する</b></p> <p>この学年の子どもたちは，1年次から「食」「ボランティア」に関する総合的学習の時間を通して，「人との交流」「心の交流」を深めてきた。そこで，3年次は沖縄研修を通して，生命を尊重する態度を育てたい。</p>	<p><b>コミュニケーション力を育成する</b></p> <p>社会を生きる上で大切な力は，コミュニケーション力である。何か問題に出くわし，解決を迫られるとき，友達に相談をしたり，または，見識者にアドバイスを求めたりする。人にかかわる力，コミュニケーション力を育成し，生徒の「生きる力」をはぐくみたい。</p>	<p>教師の願いや生徒の実態をアンケートで把握し，今年度の目標を設定した。</p>
<p>テ ー マ</p>	<p><b>生命尊重 沖縄研修を通して</b></p>	<p><b>「武雄から広げ隊」 武雄の人やよさに気付こう</b></p>	<p>コミュニケーション力の育成には，身近な人々との交流が適当であると考え，「武雄から広げ隊」というテーマを設定した。</p>
<p>年 間 カ リ キ ュ ラ ム</p>	<p><b>単元：「沖縄を発信！」</b></p> <p>沖縄研修の準備をしよう</p> <p>↓</p> <p>沖縄でガマを体験し，元ひめゆり部隊の方の話を聞こう</p> <p>↓</p> <p>沖縄新聞をつくろう（平和の尊さについてまとめよう）</p> <p>↓</p> <p>平和をテーマに学級で出し物を考えよう</p> <p>↓</p> <p>学習発表会で，出し物を発表したり，展示したりしよう</p>	<p><b>単元：「沖縄から武雄を見つめて」</b></p> <p>体験する</p> <p>沖縄研修の計画を立てよう</p> <p>↓</p> <p>沖縄で様々な体験研修で，沖縄の人々にかかわろう</p> <p>課題設定</p> <p>↓</p> <p>沖縄新聞作りを通して，武雄関連の追究テーマを考えよう</p> <p>追究</p> <p>↓</p> <p>追究テーマに沿って調べたり，制作したりしよう</p> <p>発表</p> <p>↓</p> <p>追究結果を学習発表会で発表しよう</p> <p><b>単元：卒業レポートを書こう</b></p> <p>振り返る</p> <p>↓</p> <p>3年間の学習を踏まえて，テーマを設定し，追究しよう</p>	<p>前年同様，沖縄を題材に単元の計画を立てたが，テーマを生かせるように，武雄との比較・対比を新たに組み込んだ。</p> <p>後期は，新たに卒業レポートの作成を組み込んだ。レポートを作成しながら，自分の学びを振り返り，成長を実感させることをねらった。</p>

(項目とチェック事項は p.10 を参照)

項目	チェック事項
年間カリキュラム	前年度のカリキュラムと生徒の実態(身に付けている学習 び方、学習経験)等を考慮しているか。
	発達段階に応じた育てたい資質や能力、学ばせたい学習 内容等を考慮しているか。

ここをチェック!



本書 p.10 の【視点1】のカリキュラム評価の項目とチェック事項を用いて、昨年度の年間(実施)カリキュラムを点検し、今年度の年間(計画)カリキュラムを作成した。評価表から見た昨年度の年間(実施)カリキュラムの問題点は、上記の項目のチェック事項にあるような内容を十分に考慮していなかったことである。第一の問題点は、道徳の内容のような「生命を尊重する態度を育てる」を目標に掲げていたことである。第二に、生徒の実態に十分に考慮した上で、育てたい資質や能力を設定していなかったことである。

これら2つの問題点をもつ昨年度のカリキュラムの修正・改善を図るために、教師の願いを把握する「学習実態調査」を行った(表1)。実態調査は「課題設定力」「表現力」「思考力」など9つの能力に関して22個の質問を準備し、生徒が9つの能力をどの程度身に付けているかどうかを教師に調査した。その結果、「多くの人の前で意見や考えを公表できる」「自分らしい表現になるように工夫することができる」「自分の考えで相手を説得することができる」という力が生徒に十分育成されていないと感じている教師が多いことが分かった。この調査に基づいて、全体研修会で「自分の意見や考えを人と交流させる力」「すすんで人とかわる力」を生徒に身に付けさせることの必要性を教師間で共通理解した。

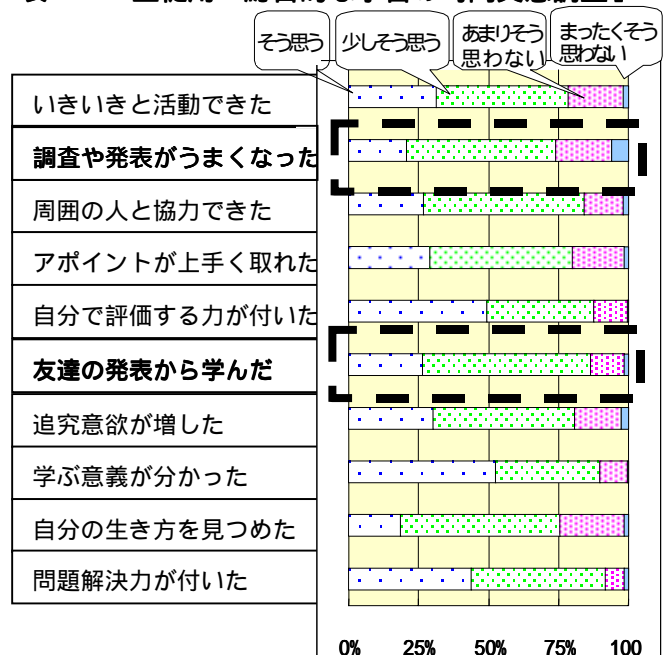
また、生徒の実態を把握すべく、生徒にも調査を行った(表2)。その結果、「調査や発表がうまくなった」「友達の発表を聞いて学習を深めた」と感じている生徒が多くないことが分かった。教師だけでなく、生徒自身も、「人にかかわり、自分の意見を人と交流させる力」が身に付いていないと感じていることをこの意識調査で把握することができた。

そこで、3年次にコミュニケーション力を身に付けることができるよう、1年生を「表現力」、2年生を「対話力」、3年生を「コミュニケーション力」と、中学校3年間の目標を設定し、次年度の年間(計画)カリキュラムを作成した。

表1 「教師用 学習実態調査(一部抜粋)」

能力	質問項目	よい よくない (下記の数字は%)			
		A	B	C	D
課題設定力	資料や経験から課題を見付けることができる	10	50	30	10
	調べたいことややりたいことを見付けることができる	30	50	15	5
	意見や考えをはっきりもつことができる	20	40	30	10
表現力	多くの人の前で意見や考えを公表できる	15	30	40	15
	自分らしい表現になるように工夫することができる	10	30	40	20
	自分の考えで相手を説得することができる	10	30	40	20
思考力	筋道を立てて考えることができる	20	45	30	5
	多くの資料に基づいて適切な判断ができる。	10	50	30	10

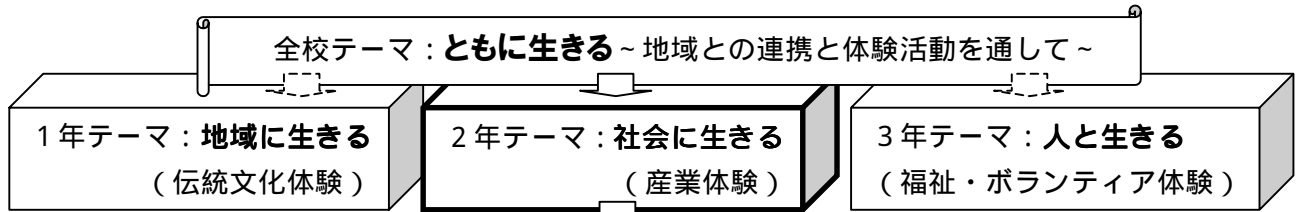
表2 「生徒用 総合的な学習の時間実態調査」



(2) 【視点2：実施中】と【視点3：実施後】の実際（諸富町立諸富中学校 第2学年）

ここでは、【視点2】【視点3】の2つの視点における、カリキュラム評価の実際を載せている。

総合的な学習の時間全校テーマ



第2学年の総合的な学習の時間では、自分を取り巻く社会に目を向け、その中で生きる自分を見つめさせるために、自分の周りにある産業について調べ、課題発見、課題解決に取り組ませることを考えた。

単元計画（前期単元「産業」）

過程	時数	学 習 活 動
ふ れ る	4	1 <見つめる学習> 自分・地域・周りの人を見つめる (適性検査・家の人へのインタビューなど)
	4	2 <見る・聞く・話す学習> ・地域の産業を見る：どんな産業があるか ・事業所の人の話を聞く、事業所の人と話す(何名か講師を呼び、講演会を開く)
	2	3 <しぼり学習> ・自分のテーマをしぼり込み、決定
調 べ る	6	4 <調べ学習> ・アンケート調査 ・聞き取り調査 ・インターネットや書籍調べ
	6	5 <体験学習> ・各自で選んだ事業所でインタビューや体験学習をする
ま と め る	4	6 <まとめ学習>：レポートを書く
	4	7 <表現学習>：レポートの報告会をする
	2	8 <発展学習>：自らの進路を考え、将来の設計をする

【視点2：実施中】

実践例2：課題解決

課題をつかませるために、生徒に体験活動や話し合う場を十分に保障しているか。  
( p.32 詳細説明 )

【視点2：実施中】

実践例3：課題解決

生徒の学びの姿を多面的、継続的にとらえ(見取り)、適切な指導を行っているか(指導と評価の一体化)。  
( p.33 詳細説明 )

【視点3：実施後】

実践例3：計画カリキュラムと実施カリキュラム（次年度への引継ぎ）

次年度への示唆として、気付き（効果的な手立て、地域連携の成果など）や検討事項（活動の種類、時間数、支援体制）等が引継ぎ事項として残されているか。（ p.34 詳細説明）

実践例4：家庭・地域連携

家庭・地域連携における改善点を明らかにしているか。  
家庭・地域に対して自校の教育活動の説明責任がなされているか。  
家庭・地域の声や要望等を大切にしているか。

( p.35 詳細説明 )

**【視点2：実施中】**

ア 実践事例2：課題解決のカリキュラム評価

(項目とチェック事項はp.12を参照)

ここをチェック!



項目	チェック事項
課題解決	✓ 課題をつかませるために、生徒に体験活動や話し合う場を十分に保障しているか。

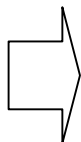
生徒に課題をつかませる段階で、地域の産業にかかわる人から情報を得る機会を設けた。1回目の反省を基に、2回目は生徒に選択の機会を与え、地域の人とかかわる場を保障した。

**【計画】**

○地域の産業をとらえるために、事業所の方を呼び、話を聞く。

地域の人の講演会を3回開く

(体育館において全員で聞く)



**【実施】：修正・変更点**

○地域の産業をとらえるために、事業所の方を複数(11人)呼び、聞きたい人を選択し、課題をもってかかわる。

地域の人のミニ講演(11会場)

(生徒一人一人が講師とかかわる機会を十分に保障する)

**【実際と考察】**

生徒に課題をつかませる手立てとして、上記のように、地域の人のお話を聞く機会を設定した。計画では講演会を3回予定し、地域の講師を依頼していたが、1回目の講演(海外青年協力隊の団員の講演)を終えた後で、見直しの必要性が出てきた。講師の話は、海外の厳しい環境の中で貴重な体験をされた内容でたいへん興味深かった。しかし、体育館で一斉に聞くという状態であったので、生徒が意欲的に質問するような場面は見られず、講師の生き方に触れるような話のやり取りはできなかった。また、講演時間の制約もあり、生徒が知りたいことを追究するような場を保障することができなかった( C 男の感想 )。そこで、学年部会をもち、予定していた残りの講師に加え、できるだけ多くの地域の事業所に連絡を取り、11名の講師を一度に呼んで話をさせていただくこととした。講師の紹介や依頼の際は、多くの保護者の協力を得ることができた。

11名の講師は、地域に根付いた産業(警察署、消防署、幼稚園、ホテル、食品工場、家具デザインセンター、情報ビジネス、情報アドバイザー、ケアマネージャー、病院、パソコンソフト開発業)のそれぞれの事業所から来ていただいた。どの事業所も地元であり、生徒にもなじみの深いものばかりであった。生徒は、自分が最も興味のある産業を選び、熱心に話に聞き入り、多くの質問を出した。あっという間に時間が過ぎ、講師の方々も一人一人の生徒の熱心な姿に喜んで帰られた。後の体験学習で、もっと詳しく調べたいという動機で上記の講師を選んだ生徒も多かった( C 男の感想 )。



コンピュータ関連の仕事を聞く

課題をつかむ手立てとして、上記のような変更を行い、大変成果が上がったといえる。生徒は自分の興味に沿って講演を選択でき、また、少人数(1グループ平均6~7名)で直接講師と触れ合うことで、より深く、より多くのことを知ることができた。生徒一人一人が、自分の課題をつかませる手立てとして、大変有意義であったと思う。

< C 男の感想 : 1回目 > ハンガリーの話がとてもおもしろかった。日本人というだけで差別されるのはおかしいと思った。ハンガリー語の紙芝居はなかなかよく分かったので楽しかった。質問は恥ずかしくてできなかった。(職業や産業としての受け止め方が不足)



< C 男の感想 2 : 回目 > ぼくはコンピュータに興味があったので、佐賀情報ビジネスの方の話聞き、質問もたくさんした。実際これを仕事としてやっていくには、多くの知識や技能が必要とすることが分かった。今度の事業所訪問はぜひここに行きたいと思う。

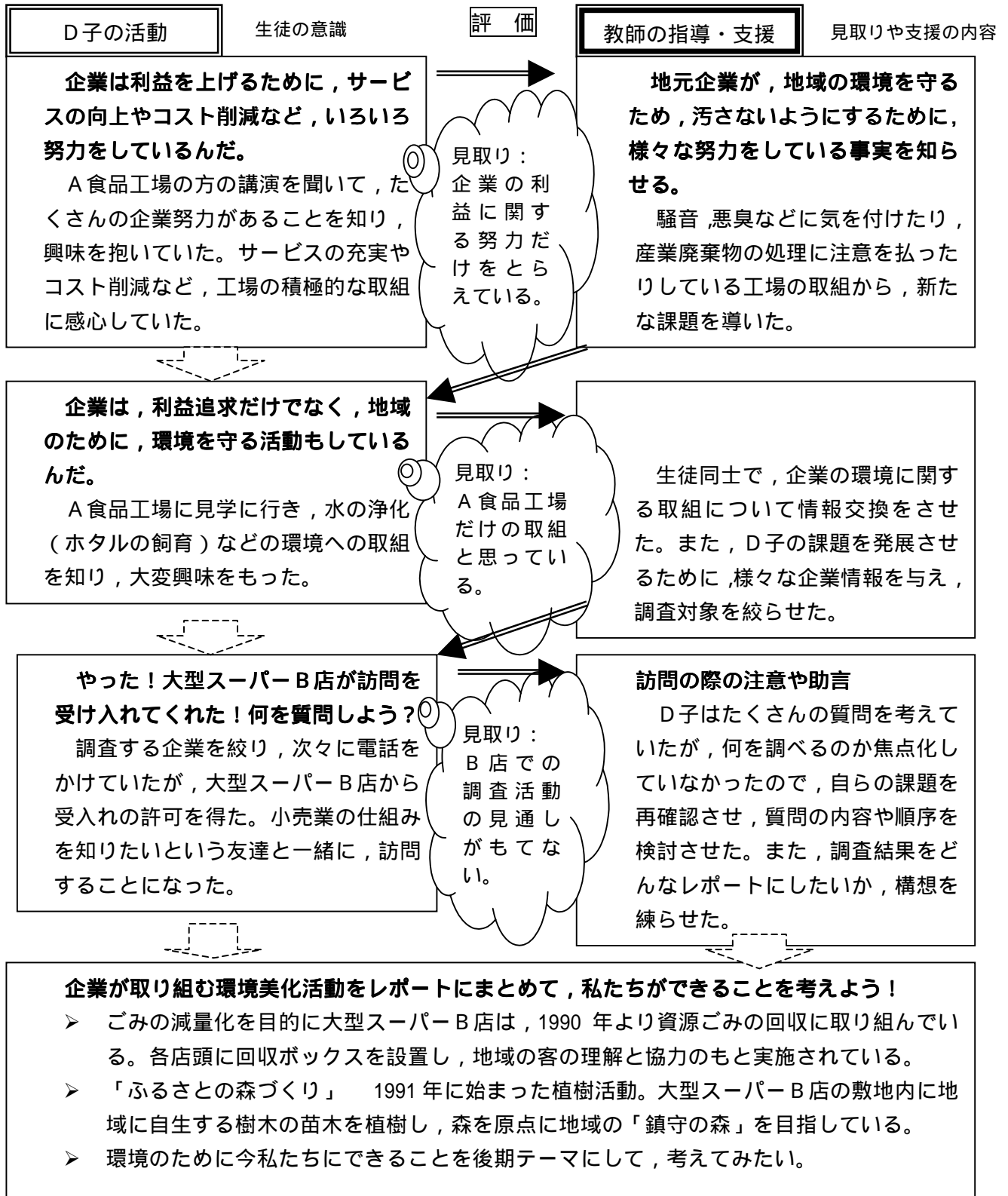


ここをチェック!

項目	チェック事項
課題解決	生徒の学びの姿を多面的, 継続的にとらえ(見取り), 適切な指導を行っているか(指導と評価の一体化)



D子の学びの姿を見取り, 課題追究を促すために, 適切な指導・支援を行った。



**【視点3：実施後】**

**ウ 実践事例4：計画カリキュラムと実施カリキュラム（次年度への引継ぎ）のカリキュラム評価**  
 （項目とチェック事項はp.14を参照）

ここをチェック！



項目	チェック事項
計画カリキュラムと実施カリキュラム（次年度への引継ぎ）	✓ 次年度への示唆として、気付き（効果的な手立て、地域連携の成果など）や検討事項（活動の種類、時間数、支援体制）等が引継ぎ事項として残されているか。

この単元が終わってすぐ学年部会をもち、次のような引継ぎ事項を話し合った。このことは研究のまとめにも書き、次年度へ確実に伝えることとする。

**<次年度への引継ぎ事項>**

**<有効な手立て>**

多数の講師を招聘して行った講演は、大変効果的であった。生徒に選択させたり、情報交換の場を設けたりするために必要である。

- ・生徒の選択の機会を保障（講師の選択）
- ・コミュニケーションの機会を保障（少人数の場）

まとめの方法に関しては、時間の制約がありできなかったが、レポート発表の後討論会を行い、お互いの意見交換をるところまで高めたかった。

- ・追究した事をまとめる時間を保障（単元計画のゆとり）
- ・意見交換の場を設定（学び合いの場）

今年度も多数の町内外の事業所（約50か所）が訪問を受け入れてくれた。本校では、受入れ事業所のリストを毎年作っており、今年度も新規開拓した所については新しくリストに追加し、次年度に活用する。また、町が作成している地域人材バンクに加え、保護者や教職員の紹介などで増えた講師のリストも作成し、次年度へ引き継ぐ予定である。このような方法で、事業所探しや講師探しの際に役立つ学校の財産を作っていることは大いに評価できると考える。

- ・受入れ事業所のリスト作成（リストの更新、事業所との連携、説明責任）
- ・地域人材リストの作成（リストの更新、専門講師・ボランティアティーチャーなどとの連携、説明責任）

懸案事項の一つとして、生徒の訪問先への事前連絡が挙げられる。生徒からの直接の電話に驚き、教師がはじめに連絡を取り、打診すべきではないと言われるところもあった。生徒の主体的な取組を大事にしなければならないが、訪問先へ学校からの協力願いの必要である。日ごろから、協力いただく事業所との連携を図るようにする。

- ・訪問マニュアルなどの作成、あいさつ・お礼・礼儀作法などの指導（社会的な常識、モラル）

次年度への引継ぎとして  
 研究のまとめに記載



ここをチェック!



項目	チェック事項
家庭・地域連携	家庭・地域連携における改善点を明らかにしているか 家庭・地域に対して自校の教育活動(総合的な学習の時間を含む)の説明責任がなされているか。 家庭・地域の声や要望等を大切にしているか。

**家庭・地域への説明責任, 連携の改善点など (単元を振り返って)**

- < 学年便り > ほぼ毎週発行している学年だよりや月1回の学校だよりで 総合的な学習の時間の内容や生徒の取組の様子を家庭に知らせている。
- < 通知表 > 総合的な学習の時間の評価は毎学期の通知表に記述式で書き 生徒の追究の過程での姿, どのような学びがあったのかなど, 具体的に知らせる。
- < 学年 PTA > 特に事業所訪問に関しては, 保護者の引率が必要な所もあったので, 1学期末の学年 PTA の場で, 詳しく説明し, 保護者の了解を得た。保護者の意見としては, この年令で訪問・体験させるのはとてもよいことだという声が多かった。また, この時間の取組の様子を学年便りなどで, もっと知らせてほしいという要望も多く, 発行の回数を増やしていくことが必要である。
- < 新聞 > 「働く人の話を聞く」という記事で佐賀新聞の地域版に取組が掲載された。地域のみならず, 広く県下に知らせることができた。
- < 町の広報誌 > 町の広報誌にも写真入りの記事を書かせてもらい 地域の人たちへ知らせることができた。

**資料 17 新聞や町の広報誌で取組を知らせる**



\* このように家庭・地域との連携は今年度の方法でよいと思うが, PTA や行事の際にアンケートを取るなど, もう少し家庭や地域の意見を聞く機会を増やしていくことが必要である。また, 生徒だけでなく, 学校からも情報を積極的に発信していくことが, 家庭・地域との連携を深めていくことにつながる。

なお, 生徒に取った事後アンケートでは, 9割以上の家庭で何らかの機会にこの時間の学習についての話題が出ており, 生徒から実際に報告を受けている家庭が多かったことは喜ばしいことであった。

(3) 【視点4：カリキュラム全体】の実際（武雄市立武雄中学校 第3学年）

ア 総合的な学習の時間の目標（学年）の見直し・改善

年間（計画）カリキュラムに沿って、沖縄と地元武雄の比較、体験学習での人とかかわりなどの活動を大切にしながら取り組んだ。課題設定の段階では、沖縄と佐賀のくらしや文化を対比させたことで、生徒が新しい視点で、地元武雄を見つめ直すことができた。言葉、歴史、食、音楽、文化など、生徒の追究テーマには、沖縄の学習が生きていた。「コミュニケーション力」を高めるために、追究過程で、聞き取り調査の時間を確保し、地域の人たちとかかわる機会を設定した。

<今年度の年間（実施）カリキュラム>

目 標		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力 を 育 成 す る					
テ ー マ		「武雄から広げ隊」 「沖縄から武雄を見つめて」「卒業レポートを書こう」					
一 学 期	四月	オリエンテーション				気付き・メモ ただ単に体験させるのではなく、後の課題設定に生かせるよう、身近な経験と対比しながら、体験学習に取り組ませるようにした。	
	五月	沖縄体験研修の準備をしよう					
		身近な経験と対比して沖縄を体験しよう					
五月	体験する	を体験しよう 材料に注目して琉球料理	有明海と対比してビーチ コーミングを体験しよう	サンシンを弾いて琉音階 を体験しよう	ガマに入って戦時中様子 を疑似体験しよう	みかん栽培と対比して パイナップルを体験しよう	
一 学 期	六・七月	課題設定	沖縄での体験を沖縄新聞にまとめよう				佐賀や武雄との対比で追究テーマを設定させたのは、「沖縄のことを調べながらも武雄や佐賀の人々と交流し、人にかかわる力を身に付けてほしい」「沖縄を通して佐賀・武雄に住む自分を振り返ってほしい」という願いからである。
	佐賀や武雄との対比で、追究テーマを考えよう						
	武雄のよさについて調べてまとめよう（聞き取り調査）						
二 学 期	九・十月	追究する	琉球料理と武雄の郷土料理のよさを比較して両者の秘密をさぐる	琉球方言と比較して佐賀の方言の特徴を調べよう 方言を用いて交流しよう	琉球音楽の歌詞を分析して人々の思いを感じよう 郷土の民謡を調べよう	沖縄戦を調べて、戦時中の佐賀・武雄を調べよう 平和を願う思いを共に発信しよう	
	十一月	発表	学習発表会で自分たちの考えを発表しよう				
三 学 期	十一月	振り返る	卒業レポートのテーマを探そう				3年生全員が全校生徒の前で発表できるようにプログラムを構成した。
	追究テーマを調べよう						
	追究したことを冊子にまとめよう						

項目	チェック事項
総合的な学習の時間の目標(学年)	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの学びに応じて、総合的な学習の時間の目標の見直しが図られているか。

ここをチェック!



### <総合的な学習の時間の目標(学年)のカリキュラム評価の考察>

本年度の総合的な学習の時間の成果は、生徒一人一人が課題を追究していく過程で、学年の目標である「コミュニケーション力」を身に付けてきている手応えを、はっきりと得ることができたことである。

「武雄のよさ(くらしや文化、歴史など)」について調べる際には、インターネットや書籍では限界があり、人とかがわりながら追究することが必要になった。そして、直接人とかがわる調べ学習を通して、人の温かさにも触れることができた。

年間(計画)カリキュラムの修正については、「コミュニケーション力」を身に付けさせるため、人と交流する機会をできる限り設定するようにした。

沖縄での体験研修では、ただ単に体験させるのではなく、自分の経験と比較しながら体験学習を進めさせた。また、課題設定の場面でも、佐賀や武雄との対比でテーマを設定させたため、人々との交流が沖縄に限定されることなく武雄にも広がった。

例えば、佐賀と沖縄の方言を調べた班は、沖縄で知り合った方に手紙を出して沖縄の方言を調べるだけでなく、武雄市立図書館に通って方言に関する文献を探したり、お年寄りに聞き取りを行ったりして、人との交流を意欲的に進めることができた。資料 18 は、その感想である。

沖縄や武雄の人々との交流を通して、自分たちが日ごろ使っている武雄弁にも目を向けていることが分かる。また、学習発表会は、代表の班や個人が発表する場としてではなく、生徒一人一人の表現力を高めるために、全員が自分の考えや思いを表現する場として設定した(写真 1)。

以上、体験研修や手紙のやり取りを通して沖縄の人々と交流する場面、聞き取りを通して武雄の人々と交流する場面、発表会を通して同級生や下級生と交流する場面などを設定できたことによって、人にかわり、自分の意見や考えを人と共有する「コミュニケーション力」を身に付けさせることができたのではないかと考える。また、生徒の学びの分析を通して、「コミュニケーション力」に加え、「自分の生き方を考える力」もとらえることができた。自分の生活や郷土の文化を考える活動に取り組んできたからである。資料 18 の感想からは、沖縄の方言を調べることで自分の使っている言葉を見つめ直していることが分かる。

次年度の第 3 学年では、表現力を高めたり、思いや願いのやり取りを行ったりするだけでなく、本年度の生徒の学びを考慮し、「人とかがわる力」「かかわりを通して学ぶ力」など、具体的な下位目標を設定して、「コミュニケーション力」を育成していきたい。

### 資料 18 沖縄と佐賀の方言を調べた班の感想

「…沖縄の方言を調べてみて、最初は外国の言葉のように感じました。しかし、沖縄の言葉の中に、枕草子などに使われている古語があることを知って、そうでもないかなと思いました。私たちの方言の中にも、枕草子にみられる「口縄」という言葉も残っているし、佐賀弁も沖縄口も、日本語の方言なんだと思いました。」



写真 1 学習発表会の様子